

自然観察学習館ニュースレター

2019年9月号

9月14日13時33分 今年最小の満月

地心距離とは…
地球の中心と天体
の中心の間の距離

視直径とは…
天体の見かけの大きさ

どれくらい小さい？

今年最大の満月 2月20日0時54分
満月の瞬間の地心距離は約35万7千キロメートル
今年最小の満月 9月14日13時33分
満月の瞬間の地心距離は約40万6千キロメートル

最も大きな満月は最も小さい満月に比べて14パーセント視直径が大きく、30パーセント明るく見えます。

どうして月の大きさがかわるの？

満月における地心距離はおよそ35万6千キロメートルから40万7千キロメートルの間で変化するからです。月の軌道は楕円形をしているため、地球と月との距離は一定ではありません。また、太陽や地球などの重力を受けてわずかに変化するため、月が地球に最も近づく位置や最も遠ざかる位置は毎回異なります。

どうして月の形はかわるの？

月は地球の周りをまわっています。月は自ら光る天体ではなく、太陽の光を反射して輝いているため、月、地球、太陽の位置関係によって形が変わって見えます。 [新月→上弦→満月→下弦→新月]



むかしは電気の明かりはなく、月の満ち欠けで日を数えていました。

中秋の名月＝満月じゃない？

「中秋の名月」とは、太陰太陽暦の8月15日の夜の月のことをいいます。今年は9月13日です。月が新月から、再び新月に戻るまでの周期は約29.5日です。日の区切りと月の見え方が一致しないため、完全な満月になるとは限りません。

俳句の季語（季題）では月といえば9月の月、名月といえば中秋の名月のことだけを指します。秋から冬にかけて空が澄み、月が明るく大きく照りわたるからです。

秋は空気が澄んで、月を眺めるのに適した季節です。

満月前後の月は明るいだけでなく、
一晩中見えているそうです♪

太陰太陽暦とは…
月および太陽の運行に
基づいて定められた暦法

※イメージ図
外側の円…今年最大の満月
内側の円…今年最小の満月

学習館では9/7・11/9・2/8に、星座の観望会を行います。
夜の公園で望遠鏡をのぞいてみませんか？（事前申し込みが必要）
また、12/26は日蝕観望会を行います。
ぜひご参加ください。

自然観察学習館
〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園1-1
TEL:06-6877-6923
✉アドレス: expo70gakusyu@cronos.ocn.ne.jp

【今月の行事】

8日(日) バッタの観察会
13日(金) 季節の植物観察会
14日(土) 木や竹、木の実を使った工作
28日(土) 木や竹、木の実を使った工作
29日(日) 秋の野草の観察会